

平成 26 年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

| | |
|--------|----------|
| 団体名 | 京都府教育委員会 |
| 研究開始年度 | 平成26年度 |

I 概要

1 指定校の一覧

| 設置者 | 学校種 | 学校名 |
|-----|--------|--------------|
| 公立 | 特別支援学校 | 京都府立盲学校 |
| 公立 | 特別支援学校 | 京都府立聾学校 |
| 公立 | 特別支援学校 | 京都府立向日が丘支援学校 |
| 公立 | 特別支援学校 | 京都府立宇治支援学校 |
| 公立 | 特別支援学校 | 京都府立城陽支援学校 |
| 公立 | 特別支援学校 | 京都府立八幡支援学校 |
| 公立 | 特別支援学校 | 京都府立南山城支援学校 |
| 公立 | 特別支援学校 | 京都府立丹波支援学校 |
| 公立 | 特別支援学校 | 京都府立中丹支援学校 |
| 公立 | 特別支援学校 | 京都府立舞鶴支援学校 |
| 公立 | 特別支援学校 | 京都府立与謝の海支援学校 |

※京都府総合教育センター

2 研究テーマ

自立と社会参加に向けた「各教科等を合わせた指導」の充実をめざした実践研究

3 研究の概要

特別支援学校においては、平成25年度京都府総合教育センターで作成した「各教科等を合わせた指導ガイドブック」を基に、府立特別支援学校11校が協働で「各教科等を合わせた指導」の授業研究に取り組んだ。授業研究では、①子どもの実態把握、②指導計画、③授業づくり（学習指導案の作成）、④授業改善の4点と学習指導要領解説に示された「考慮する点」を踏まえて研究を進めるとともに、学校間がチームとなって授業研究を進める研究体制を構築した。授業研究会の集大成として事業報告会を開催するとともに、研究成果として学習指導案集（「各教科等を合わせた指導ステップアップガイド」）を作成し、研究内容を発信することで、「各教科等を合わせた指導」の効果的な授業づくりのポイント等を共有した。

また、特別支援学級対象の研究については、府内小・中学校特別支援学級担任（京都市除く）を対象に教育課程等の現状や学級担任の意識に係る調査研究から課題を把握し、分析及び考察を行った。児童生徒の実態に合わせた教育課程編成に向けた具体的な視点を広めること、「各教科等を合わせた指導」の正しい理解を促すこと目的とした「特別支援学級担任のための教育課程ハンドブック」を作成し、特別支援学級担任の幅広い授業力向上に向けた発信を行った。

4 研究の成果

府立特別支援学校各校1名の若手教員を研究協力員として選出し、3つのグループに分かれ、各校で「各教科等を合わせた指導」の授業研究会を計11回実施した。12月には事業報告会を実施し、府内小、中学校及び高等学校からの参加者を含め計200名以上の参加者があった。各学校における「各教科等を合わせた指導」に関する①アセスメント②指導計画③授業づくり④授業改善のP D C Aサイクルについて共有するとともに、学習指導要領解説の「考慮する点」に沿った事後研究会における活発な論議を通して、「各教科等を合わせた指導」における授業改善のポイントを明確にすくことができた。

特別支援学級対象の調査研究においては、調査結果の分析・考察から、特別支援学級において編成される教育課程の傾向や、「各教科等を合わせた指導」の実施状況（実施率81%）であること等が分かった。また、編成にあたっては前年度を参考にする場合がほとんどであり、児童生徒の実態を踏まえた教育課程編成の考え方を広め、「各教科等を合わせた指導」についての基礎知識を広め理解を深める必要性が研究課題としてあるのではないか、という仮説を立証する調査結果となった。

研究の成果として、特別支援学校における授業研究については、学習指導案集（「各教科等を合わせた指導ステップアップガイド」）を府内に発信し、特別支援学校だけでなく、特別支援学級や通常の学級においても参考になる授業づくりのポイントを発信した。

また、特別支援学級対象の調査研究については、今後の研究への第一歩として、「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの参考となり、学級担任の発想の転換を図り、教育課程作成を具体的にサポートする「特別支援学級担任のための教育課程ハンドブック」を作成し、府内の全小・中学校（京都市除く）に配付した。特別支援学級担任の幅広い授業力の向上を目指し、今後は実践研究を通して更に内容の検討及び精選をすすめていく。

5 課題と今後の方策

府立特別支援学校においては、「授業を京都府に、指導案を全国に」という緊張感をもつて、研究協力員を中心に各校が授業研究に取り組んだ。学習指導要領の基本を押さえ、学習指導要領解説に示された考慮する点を踏まえて取り組んだ授業研究が、学習指導要領を更に理解するための機会となり、共通の視点で授業づくりのポイントや改善点を考えることができた。しかし、全国発信を視野に入れた「各教科等を合わせた指導」の実践例が少ないため、今後も「各教科等を合わせた指導」の授業の共有が必要である。自立と社会参加を一層推進する観点を踏まえ、各校における教育課程の改善も視野に入れた授業研究を実施し、府立特別支援学校における「各教科等を合わせた指導」研究を複数年継続実施していく。

特別支援学級については、「特別支援学級担任のための教育課程ハンドブック」により、教育課程編成の基本や、学習指導要領解説を踏まえた授業づくりのポイントについて共有した。今後は、府内の5市町と連携し、特別支援学級担任者会等から適切な教育課程編成的具体的な方法や各教科等を合わせた指導の授業づくりの方法を検討し、特別支援学級モデルプランとして提案する。また、インクルーシブ教育システムを踏まえた交流及び共同学習の在り方や校内体制の構築についても研究を進めていく。